



ひとりだち

可児市立西可児中学校



R7 校報第10号

令和7年12月30日



未来につなぐはし

1年生学年主任 井戸 良

2025年中は温かいご理解・ご支援をいただき、ありがとうございました。そして新年もよろしくお願ひいたします。2026年も明るく学校生活を送れるよう、新たに心を引き締めて、子どもたちとともに自分自身も成長していきたいと思っています。

さて、みなさんは年末年始に何をしていますか？家族旅行、大掃除、親戚同士集まっての会食など、恒例行事があるというご家庭も少なくないのではないでしょうか。

私は、年の瀬に自分でついた餅を雑煮にして元旦に食べるのが毎年の恒例となっています。父が育てたもち米を蒸し、杵と臼でつくついた餅が雑煮の中に入ります。自分でついた餅は粘りの強さが違います。また、頑張った苦労も重なるのでより一層美味しく感じられます。

もう一つの恒例はその雑煮を食べるときの「箸」です。その箸は、両端が細く作られた柳箸というものです。我が家では物心ついたころからこの箸を使っていましたが、なぜそれを使うのかは知りませんでした。「正月はそういうものだ」という程度にしか思っていなかったのです。ふと気になってその意味を父に聞いてみました。

すると、片方は人が食べるため使い、もう一方はご先祖様が食べるため両方使える箸を使うのだということを教えてもらいました。「現在」と「これまで」をつなぐ箸であり、「現在」と「未来」をつなぐものともいえるのかもしれません。何気ないところにも、大切にしたい願いが込められているんだなと感心しました。



さあ、いよいよ新しい年が始まります。未来に向かっていくために「心がワクワクすること」が、子どもたちにとって前に向かって進む力になります。

「自分のやりたいことって何だ？」とか「私の夢は何だ？」といったことの答えは簡単に見つかるものではありません。でも、自分の心がワクワクすることを求めていってほしいと考えます。

ワクワクが子どもたちの未来をつなぐ「橋」になることを願っています。